

「教育と公共」研究部会（第41回）

日時：2022年11月11日（金）13:30～16:40

場所：野間教育研究所（対面）＋オンライン

出席：上野正道・浅井幸子・狩野浩二・田嶋一・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
山口和人所長・吉久知延・川上智子（野間教育研究所事務局）

内容：（1）狩野研究員：『おしになった娘』による作品と対面

本発表では第8回目の公開研究会（昭和37年）における武田常夫の“授業案”をもとに、島小の授業づくりの実態を前回発表の内容をさらに検討。

武田が1964年に公刊した「文学の授業」（明治図書出版）から公開研究会となった授業の実践記録を取り上げ考察した。

（2）上野研究員：「デューイの『経験と教育』」

デューイの上記の著作の紹介。

第一章 伝統的教育対進歩主義的教育

- ・「あれかこれか」という見地
- ・ 伝統主義教育の特徴
- ・ 伝統的教育の批判
- ・ これから必要な哲学とは何か
- ・ 問題提起

第二章 経験についての理論の必要

- ・ 経験とは何かについて知る必要性
- ・ 経験の連続性の原理の重要性
- ・ 伝統的学校と進歩主義的学校の違い
- ・ 教育の組織化

第三章 経験の基準

- ・ 進歩主義運動が推奨される理由
- ・ 教育的経験と非教育的経験を識別するための連続性の問題
- ・ 相互作用の重要性
- ・ 連続性と相互作用
- ・ 未来を考慮すること
- ・ 教育的計画における準備の真の意味とは

・ 次回研究会 12月9日（金）13:30～